

弥惣兵衛さんって、他にもいろいろ活躍したんだね。

ほら、ここが見沼代用水 **地図B** とよばれる農業用水路よ。こちらは東縁用水路ね。ここ、おじいちゃんが桜の名所だっ

ていつた場所だよ。ふつうの川みたいに見えるけど、なぜそんな名前なの？ 竜神様が住んでいたといわれる沼は、元々、周囲の田んぼに使う水をためる場所だったの。でも、そこを田んぼにしてしまったので、お米を作るために利根川から水を引いて



春は桜が美しい見沼代用水



見沼通船堀はパナマ運河より180年も前に造られていた閘門式運河

くする必要があったのね。だから代用水。そうか、田んぼが増えたから、もっとたくさんのお水が必要になったんだね。

もう1本の西縁用水路と合わせ、東西2本の水路をわすか半年ほどで作ったそうよ。そのリーダーが弥惣兵衛さんだったというわけ。

わあ、すごい。きつとたくさんの方が働いていたんだらうな。

そのおかげで、今でもこの地域には田んぼや畑がたくさんあって、農業がさかんに行われているわ。

自然もいっぱい残っているね。

本当だ。すごい迫力だね。帰ったらパパにも教えてあげよう。

お葬式の時、棺をかついで門をくぐるよ、竜に中身を食べられて軽くなる、というお話もあるそうよ。

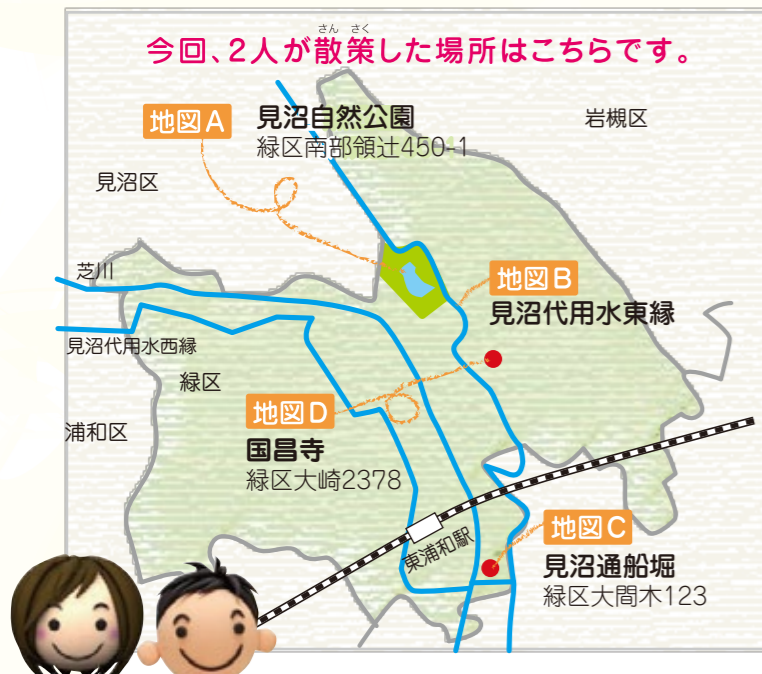
昔の人はみんな、竜のことをこわがっていたのかな。

お葬式の時、棺をかついで門をくぐるよ、竜に中身を食べられて軽くなる、というお話もあるそうよ。

昔の人はみんな、竜のことをこわがっていたのかな。

お葬式の時、棺をかついで門をくぐるよ、竜に中身を食べられて軽くなる、というお話もあるそうよ。

昔の人はみんな、竜のことをこわがっていたのかな。



竜神というのは水の神様なの。このあたりは水が豊かだったぶん、時には川がはんらんしたり、洪水が起ることもあったから、それを「竜神様の怒りだ」と考えたんじゃないかしら。そうなんだ。水がたくさんあると、大変なこともあるんだね。



国昌寺の開かずの門

こっちの小さな川は何だらう。これは見沼通船堀 **地図C** というのよ。何をやる場所なのかな。

見沼代用水と隣の芝川では、高さが3メートルもちがうの。モーターもない時代に、船だけの力で上るのは大変よね。そこで、水の力を利用して船を持ち上げるしくみを考えたそうよ。これも弥惣兵衛さんたちが作ったの。

船専用のエレベーターみたいだね。自動車もないから、たくさんのお荷物を運ぶのは船しかなかったのよ。

昔の人は、いろいろと工夫をしていたんだなあ。

このしくみを「閘門式の運河」というの。これが完成したおかげで、芝川を通じた江戸の町とのお米や荷物のやり取りが増え、このあたりが栄えるようになったそうよ。

今のさいたま市が住みやすい町なのは、弥惣兵衛さんたちのおかげなんだね。



ひだりじんごろう 左甚五郎作と伝わる山門の竜

でも、弥惣兵衛さんをはじめ、多くの人たちが苦労して川や用水路、水道などを整備してきたから、今では安心して便利に使うことができます。

もっともっと、さいたま市の水のことについて知りたくなってきたよ。

じゃあ、また出かけましょね。

次号(4月発行予定)でも、さいたま市内の「水」にまつわる場所やお話をご紹介します。ぜひご期待ください。